

短歌 技法 ①

年 組 名前 (

)

短歌に使われる①～⑩の技法を意味・例を参考にして書き入れなさい。

意味

例

①
↓
たとえるときに「ように」「ようだ」などを用いない。

例
ガラスの心

②
↓
語順を逆にして意味を強める。

勉強する、国語を。

③
↓
たとえるときに「ように」「ようだ」などを用いる。

②①
雲のようめるようだ

④
↓
基本の音数より少なくする。

雲のようだ(六音)が結句(最期の句)だとすると、七音なので一字足りない。

⑤
↓
短歌の基本形式。三十一音をこの順に並べる。

五句三十一音が基本
始めが「初句」(しよく)
終わりが「結句」(けつく)

⑥
↓
文の最期を体言で終わらせることで、感動を強める。

②①
秋の夕暮れち
青い

⑦
↓
人でないものを人にとえて表現する技法。

②①
空がほほえむ
大地がどよめく

⑧
↓
似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

②①
山は大きく、人は小さい。
青い空、白い雲

⑨
↓
基本の音数より多くする。

大地がどよめく(八音)が結句(最期の句)だとすると、七音なので一字余る。

⑩
↓
同じ言葉を繰り返すことで、強調したり、リズム感を生み出す。

②①
ゆつくりとゆつくりと
右に右に右に

短歌 技法②

年 組 名前（

）

短歌に使われる技法と、意味の組み合わせが正しくなるよう
カッコにアッコを書き入れなさい。

意味

ア 倒置法

（ ）

似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

イ 擬人法

（ ）

たとえるときに「ように」
「ようだ」などを用いない。

ウ 対句

（ ）

短歌の基本形式。
三十一音をこの順に並べる。

エ 字余り

（ ）

同じ言葉を繰り返すことで、
強調したり、リズム感を生み出す。

オ 反復法

（ ）

基本の音数より多くする。

カ 体言止め

（ ）

たとえるときに「ように」
「ようだ」などを用いる。

キ 直喩

（ ）

人でないものを人にたとえて表現する技法。

ク 字足らず

（ ）

基本の音数より少なくする。

ケ 隠喩

（ ）

語順を逆にして意味を強める。

コ 五・七・五
七・七

（ ）

文の最期を体言で終わらせることで、
感動を強める。

短歌 技法③

年 組 名前（

）

短歌に使われる技法と、例の組み合わせが正しくなるよう
カッコにアッコを書き入れなさい。

例

ア 倒置法

（ ）

まるで雲のようだ。

イ 擬人法

（ ）

結句（最期の句）を8音にする。

ウ 対句

（ ）

太陽が吠える。

エ 字余り

（ ）

カバンに入れる、教科書を。

オ 反復法

（ ）

走る、走る、走る。

カ 体言止め

（ ）

三十一音が短歌の基本形式。

キ 直喩

（ ）

結句（最期の句）を6音にする。

ク 字足らず

（ ）

ガラスの心

ケ 隠喩

（ ）

忘れはしない夏の青空。

コ 五・七・五
七・七

（ ）

夜は寒く、昼は暖かい。